

住宅メーカーとして、国内初のクレジットカード会社

2006年11月、大和ハウス工業株式会社と株式会社クレディセゾンの共同出資により設立。
大和ハウスグループにおける金融事業の担い手を務める会社。

大和ハウスフィナンシャル

Daiwa House Group®

大和ハウスグループの金融サービス会社。 『カード番号』を守る新たな手法。

New method



導入
しやすい
Cost

ユーザ
ビリティが
高い
Usability

セキュリティ
効果が高い
Security



システム室
野稲 哲也さん
Noine Tetsuya



広報販促課
下町 紘子さん
Shimomachi Hiroko

導入のポイント

Point

- ★共同出資会社のクレディセゾンも利用。安心の導入実績。
- ★ユーザビリティを損なわずに“カード番号”を守れる仕組み。
- ★担当エンジニアが1名のみでも、簡単に導入できる利便性。

導入の効果

Result

- ★導入後、ユーザークレーム“ゼロ”でセキュリティ対策を実現。
- ★ログイン時に煩わしいセキュリティ対策が「ちょっと楽しく」
- ★セキュリティへの姿勢を社外にアピールすることに成功。
企業のロイヤリティUPに貢献。



CONVENIENCE

利便性をそのままに、“入金管理情報”を守るため。

INTERVIEW



1

CapyCAPTCHA導入サイトについて 教えてください。

ゆくゆくは5つくらいまで導入先を増やす予定ですが、現在は2つのサイトに導入しています。

1つは、法人向けの「クレジット精算システムのWEB照会サイト」に。最近クレジットカードを始め、QRコード・電子マネー・ポイント決済など、いろいろな決済手段が増えてきましたよね。しかも発行会社も多種多様で、実は企業側の入金管理が非常に大変になってきています。そこで、決済事業者から伝送される入金情報や精算データを集約し、見やすい形で提供するのが弊社の

「おまとめサービス」。

同様のおまとめサービスは他社ではあまり行っていないということもあり、「入金管理が便利になった。」と、ご好評いただいているサービスです。

もう1つCAPTCHAを導入したのは、会員対象のお問い合わせフォームです。

弊社も決済事業者として登録している「キャッシュレス・消費者還元事業」がスタートしました。「これを機会に、WEB上でしっかりお客さまの疑問を受けられるものを作ろう!」となり、新しくお問い合わせフォームを設置。そこへ、ボットからの攻撃を防ぐために導入しました。



“カード番号”を守る
新たな手法を探して。

2

導入のきっかけを
教えてください。

今までは、親会社の大和ハウスグループの環境を使うことでセキュリティ対策をしていました。しかし、今回のサービスでは外部のASPサービスを使用することになり、改めてセキュリティについて考える必要が出てきました。リリース前は接続先のグローバルIPでガチガチに縛る形を考えていましたが「使いづらい!」という

ことで、さて…どうしたものかと。そんな時CapyCAPTCHAの存在を知りました。ユーザビリティを保ちつつ、不正アクセスはしっかり防ぐ。しかも「パズルをはめる」という、ちょっとした面白さを感じられる仕様ということで「これだ!」と思いました。

クレディセゾンを始めとした、各クレジットカード会社の利用実績も安心材料の一つでしたね。

EMBEDDED

1週間を予定していた組み込み
作業は、半日で終わった。

3

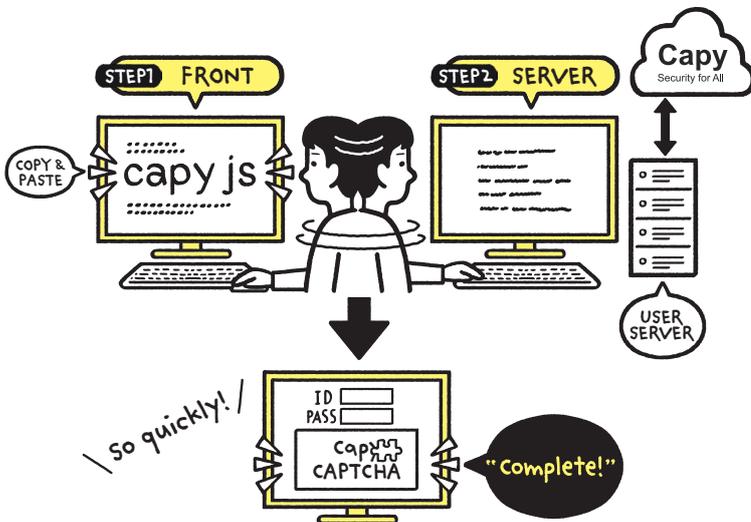
導入前後に困ったことは
ありましたか?



特にありませんでした。実は、私は元々WEBアプリのエンジニアで、セキュリティやハード系は専門外。そんな私一人でもテストの組み込みは2日間、実装に至っては半日で完了。サンプルやドキュメントがしっかりそろっていたのがありがたかったなあ。

1週間くらい作業時間を取っていましたが、予想以上に早く終わり、なんだか得した気分でした。(笑)

リリース後も、お客さまからCAPTCHAの使用方法についてのお問い合わせは1件も来ていません。直感的に理解できるし、他社サイトでの利用実績も多いので皆さん見慣れているのだと思います。



「こんな楽しいセキュリティ対策方法、
あって良いんだ。(笑)」

4

Capy製品のお気に入り
ポイントを教えてください。



アバターCAPTCHAを最初に見た時は、「こんな面白いセキュリティ対策があって良いのか!」と衝撃を受けました。アバターに帽子をかぶせてみたり、リンゴをもたせてみたり…。ゲーム感覚で楽しめるのは良いですね。

お客さまにとって「セキュリティ対策」は煩わしいだけ。面倒くさいことだけど、そこに楽しさを感じられるCapyの製品に魅力を感じます。またパズルCAPTCHAに関しては、キャンペーンの告知バナーなどの画像を使用することもできるとのこと。確かにパズルピースをはめる時に、じっくりその画像を見るわけですから通常のバナーより広告宣伝効果は高いかもしれません。セキュリティ部分を広告宣伝やお知らせに使うのも面白い。ぜひ挑戦していきたいと思います。



同社「おまとめサービス」にて実際に
使用されているアバターCAPTCHA。



FEEL FREE

考える前にやってみる。
それができる気軽さもいいところ。

5

導入に悩んでいる企業さまへ
コメントをお願いします!



重く考えすぎず、まずはやってみたら良いのかなと。パパッとJavaScriptを組み込むだけで、パズル画像やアバターもデフォルトでいろいろ用意されていて手間いらず。あまり警戒せずに「まずはやってみよう」という感じで導入してみても良いと思います。

また個人的な意見ですが、やはり「流出しました」なんてお知らせメールが来ると「怖いなー」と思いますよね。なので、単純にID/PASSだけのログイン画面を見ると「大丈夫かな?」と不安な気持ちに…。CAPTCHAがあると「この会社はセキュリティ対策をきちんとしているな」という安心感にもつながっています。

また攻撃者にも「このサイト、CAPTCHAがあるから面倒だ! 攻撃するのは止めよう。」とけん制できたら…もう勝ちですね。

CapyCAPTCHA

Capy社が提供するサービスである、パズル/アバターCAPTCHAの総称。

詳しくはWEBへ

<https://www.capy.me/jp/>



○記載の会社名・製品名等は各社の商標または登録商標です。
○記載の内容は、改良のため予告なしに変更する場合があります。

2019.11